

三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2011. 9. 5

No.2008
No. 8



出席率	会員49名中35名
先々週の出席率	95.92%
ゲスト	R I 第2560地区ガバナー 石本隆太郎様 R I 第2560地区第4分区AG 山田 文雄様
先週の メイクアップ	8/31 三条RCへ 野中 悟君 9/3 三条RAC・中越分区合同例会へ 馬場輝仁君 野中 悟君

石本隆太郎ガバナー公式訪問

本日は、第2560地区石本隆太郎ガバナー、第4分区山田文雄アシスタントガバナーをお迎えしての公式訪問です。

先程、懇談会を行い、いろいろとご指導いただきました。石本ガバナーにおかれましては、この後、ガバナー講話、記念写真、クラブ協議会とよろしくお願い申し上げます。

9月1日、会員の吉田秀治さんが、84歳で亡くなりました。今年創立44年目の当クラブのチャーターメンバーであり、1973～74年度第6代会長を務められました。

昨春、立川病院に入院中の吉田さんのお見舞いに伺ったことがございますが、昨年から今年にかけて体調を崩され、入退院を繰り返しておられました。体調の良い時には例会にも出席されておられましたが、ここしばらくお休みでしたので、8月2日に誕生祝の品物や週報を持ってご自宅におじゃましていただき、久しぶりにお会いしました。「また一段と痩せて、物が食べられなくて困っている」と言われ、帰り際に「鈴木さんと会うのはこれが最後かもしれない」とおっしゃられ、「冗談言わないで下さい」とお話したこと憶えていますが、本当になってしまいました。2日に、幹事とお参りさせていただきました。穏やかなお顔でした。

当クラブ発足から永きに亘り、クラブ発展のために力を尽くされ、後輩メンバーには温かくご指導下さいました。深く感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り致します。

会長挨拶

三条南ロータリークラブ 会長
鈴木 圀彦

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるか どうか



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

国際ロータリー会長 カルヤン・バネルジー [インド]

第2560地区ガバナー 石本隆太郎 [新潟]
第4分区AG 山田文雄 [見附]

会長 鈴木 圀彦
幹事 熊倉 高志
S A A 吉井 正孝

事務局 〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

次に、お盆休みや 4 クラブ合同の社会奉仕事業の開催でご連絡が遅れましたこととお詫び申し上げ、2 点ご報告致します。

1) 新潟県共同募金会三条市支会委員の委嘱について

上記委員に平成 23 年 9 月 1 日～25 年 8 月 31 日の 2 年間、佐藤嘉男前々年度会長より引継ぎ、委嘱状を受けました。早速 9 月 1 日に第 1 回会合が開かれ、4 クラブ会長で出席して参りました。

2) 「東日本大震災に対する義援金」の取り扱いについて

8 月 12 日、石本ガバナーよりメールにて、東山直前ガバナー事務所にて取り纏められ、ガバナー会に送られた義援金の取り扱いについて意見を求められました。

時間的余裕がなく、クラブとして行動がとれず、理事会を開くことも出来ませんでしたので、現会長、幹事、義援金を送られた直前会長、幹事で検討し、回答致しました。事後報告となりましたが、ご了承お願い申し上げます、ご報告致します。

① 石本ガバナーから意見を求められました義援金の取り扱いについての内容は・・・

3 月 11 日の東日本大震災に際しましては、東山ガバナーのお声掛けにより、地区内各クラブより、約 2,500 万円の義援金が寄せられ、その内、2,000 万円が当時の上野操ガバナー会議長の下に送金されました。被災地を除く全国各地から寄せられた義援金の総額は約 99,300 万円となり、その内、12,300 万円が、第 2520 地区（岩手、宮城）、第 2530 地区（福島）を始め、7 つの地区に見舞金として送金されたとのことであります。

その後、上野ガバナー会議長の下で、「東日本大震災支援委員会」が立ち上げられ、差引残高 87,000 万円の取り扱いに方法について検討が重ねられ、“ロータリーらしい支援方法”として、

①「災害遺児への教育環境プログラム」・・・向こう 5 年間で、親を亡くした震災孤児の高校生に一律月額 2 万円、同じく大学生に月額 4 万円の奨学金を給付するというもので、総予算 62,000 万円を計上

②「ファイブ・フォー・ワンクラブプログラム」・・・ 1 被災クラブを 5 非被災クラブ連合が物心両面から支えていくというプログラムで、総予算 15,000 万円を計上

③そのための支援予備費に 5,000 万円、管理運営費に 5,000 万円の計 1 億円を計上。

結果、プログラムの総額は 87,000 万円になるという壮大な計画がもたらされました。

上記の計画案には 2 つの地区が賛同せず、ガバナー会より返金してもらい、直接被災地区へ送金する方法を選択したそうですが、残りの地区は大方賛同し、年度末を迎えたため、義援金は二本柱のプログラム案と共に今年度のガバナー会にバトンタッチされました。

7 月 1 日に、新年度片倉章雄ガバナー会議長の下で、このプログラム案について審議がなされましたが、全国 34 地区のガバナーの意見は、賛成、反対の真っ二つに割れ、結論を出すに至らず、その後、新旧ガバナー会議長、副議長、東日本大震災支援委員の会合が開かれ、地区ガバナー宛に「地区の意見の取りまとめ」が、「多数決によって一つの結論を出すことはせず、それぞれの地区の主体性を最大重視すること、つまりプログラムへの参加の是非は各地区ガバナーの判断と責任にゆだねる」として、送られてまいりました。

ガバナーとしての意見は、「震災遺児に対する教育支援も大切ではあるが、1 年毎に交代するガバナー会が、5 年も継続する長期事業にうまく対応できるとは思えない。前年度ガバナー会で取りまとめた『震災遺児を対象とする教育支援プログラム』には賛同しないこととし、すでにガバナー会口座に振り込んだ当地区の義援金は、払戻しを請求する。地区に返還された義援金は、一旦、各クラブにお返しして、各クラブより直接被災地に対する支援活動等に振り向けていただくか、希望によっては、当地区の「東日本震災支援プロジェクトチーム」にお任せいただくことも検討する」というものであります。

被災地及び、その周辺のロータリークラブにおいては、外から見ている我々とは比較にならないご苦労を、現在もされておられるはずで。皆様の善意でお寄せいただいた義援金を、“一日も早く現地にお送りしたい”というのがガバナーとしての私の願いです。

② ①に対して、当クラブは次のように回答致しました。

東日本大震災の被災地の皆様にロータリーらしい復興支援をとの呼びかけで、当クラブとしましてはいち早く対応させていただき、義援金を東山ガバナー事務所、ガバナー会へと寄附させていただきました。ガバナー会で意見が分かれ、義援金を送金してから 5 ヶ月が経過しようというこの時期に、今回のような結果になったことは大変残念に思います。

ロータリークラブとしてロータリーらしい復興支援という義援金の使途目的を果たしていただければと願ってお送りしたものですので、本件に関しましては、ガバナーにご一任申し上げます。なお、当クラブの義援金は、クラブには返金されず、「第 2560 地区東日本震災支援プロジェクトチーム」にて被災された皆様の為に役立てていただきたくお願い申し上げます。

一日も早く、3 月末にお送りしました義援金が、被災地の皆様の復興支援に役立つことを願い、直前会長、幹事と協議いたしましたことをご報告申し上げます、石本ガバナーを迎えての本日の会長挨拶と致します。



熊倉 高志 幹事

○石本ガバナー事務所より ローターリー囲碁同好会「第 10 回ロータリー全国囲碁大会」ご案内

<日時> 2011 年 10 月 22 日(土) 10:00~

<会場> 日本棋院会館 1 階対局場(東京・市ヶ谷)

<主催> ローターリー囲碁同好会日本支部 <ホスト> 東京ロータリークラブ <登録料> 7,000 円

○石三条クリーン協議会より「臨時総会」ご案内

<日時> 2011 年 9 月 6 日(火) 12:00~13:30

<会場> 三条商工会議所 4F 第 1 会議室

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

~ 9 月 5 日 39,000 円
今年度累計 198,000 円~

鈴木(囃)君 ①本日は、第2560地区石本ガバナー、第4分
区山田AGをお迎えしての公式訪問です
ご指導よろしくお願い申し上げます。

②南RCのチャーターメンバーで、第6代会長の
吉田秀治さんが9月1日ご逝去されました
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

熊倉君 石本ガバナー、山田AG、ご指導よろしくお願い
致します。

坂井君 石本ガバナー、山田AGをお迎えして！

吉井君 石本ガバナー、ようこそ！！
最後までよろしくご指導ください。

赤塚君 石本ガバナー、本日はご苦労様です。

高橋君、滝口君
石本ガバナー、公式訪問有難うございます。

馬場(信)君 石本隆太郎がバナーのご来会を歓迎申し上げ
ます。三条南クラブが更に成長できるよう
ご指導をお願い申し上げます。

韭澤君 石本ガバナーをお迎えしてBOXに協力！
災害、火災等いろいろなことが続いており
ますが、元気で頑張りましょう。

坪井君 石本ガバナーのご訪問を歓迎致します。
よろしくご指導ください。

荒澤君、大溪君、嘉瀬君、草野君、齋藤君、
佐藤(栄)君、佐藤(秀)君、佐藤(嘉)君、鈴木(武)君、
田中君、永桶君、西巻君、野崎君、野島君、
馬場(一)君、馬場(輝)君、平松君、星野君、
渡邊(光)君

石本ガバナー、山田AGを歓迎して
BOXに協力いたします。

Speech



卓話

公式訪問記念卓話

国際ロータリー第 2560 地区
ガバナー 石本 隆太郎 様

みなさん こんにちは！ ご紹介いただきました、7 月 1 日より 2560 地区ガバナーに就任いたしました、
新潟ロータリークラブの石本でございます。

7 月 19 日の長岡 RC を皮切りに、本日、15 番目の公式訪問でお邪魔しております。

最初に、簡単に自己紹介をさせていただきます。

私の経歴、及びロータリー歴につきましましては、お手元の現況報告書に記載の通りですが、新潟市で建設専門工
事業＝わかりやすく言えば、ゼネコンさんの下請けで、金属内装工事の会社を経営しており、新潟ロータリーク
ラブに入会して、今年で丁度 30 年になります。

生まれは、1942 年(昭和 17 年)で、カルヤン・パネルジー R I 会長と同年になります。現況報告書に、パ
ネルジー会長ご夫妻と握手している写真を載せていただきましたが、同い年に見えますでしょうか？

パネルジー会長は、さすがに貫禄というか、威厳がありまして、この撮影の際は、かなり緊張いたしました。

当クラブからは、今年度、地区の方には、馬場パストガバナーと共に、R 財団の GSE 委員に安達 裕委員から
ご協力いただいておりますが、今後共よろしくお願いいたします。

定款・細則の重要性

本日は、11 時半より、約一時間にわたり、鈴木会長はじめクラブの役員の方々と懇談をさせていただき、か
なり厳しいことも申し上げました。これも“ガバナーの役目”でありますので、ご容赦願います。

去る 3 月 19 日の「PETS」、及び 5 月 21 日の「地区協議会」の基調講演の講師をお願いした田中 毅先
生のご講演を聞かれた方は、ご記憶のことと思います。



田中先生は、【変えてならないもの】として「ロータリー哲学」即ち「ロータリーの奉仕理念」を挙げられ、「それを分りやすく表わしたのが『クラブ定款』である。」と述べられ、それから逸脱したら、もはやロータリーではなくなると警告されました。

【変えなければならないもの】として、「管理運営方法と、奉仕活動の実践」の二つを挙げられました。「どんな組織でも、管理運営方法を長年変更しないでいくと、必ず制度疲労を起こす。また、奉仕活動の実践は、地域ニーズの変化に従って、柔軟に対応しなければ意味がない。それらを端的に示したのが『クラブ細則』であり、会長が変われば方針も変わるのだから、事業方針の羅針盤として、毎年、クラブ細則の見直しが必要。」と話されました。

定款は、3 年毎にシカゴで開催される規定審議会で大きな変更事項があった場合、直ちに改定が必要になります。もし「クラブ定款」を変えるのを怠ったら、3 年毎の規定審議会は何のためにあるのか？ということになるわけです。

一方、細則は「毎年、見直しが必要」と教えられ、私もビックリしましたが、当地区で、そこまで実行しているクラブは、ほとんどありません。それどころか、クラブ規模の大小やクラブの歴史に全く関係なく、半数以上のクラブが、現況報告書にクラブ定款・細則の一部を抜粋しただけで、「国際ロータリー標準定款・細則と同じ。」等と記載し、しかも、会員には手続要覧は配布していないクラブが多いのです。

当クラブは、昨年までは「一部抜粋」でしたが、今年度の現況報告書は、定款・細則共に、「手続要覧・2010 年版」をもとにして、全文記載されました。

手続要覧の 2007 年版までは、選挙で選ばれる必要のない「直前会長」は、役員でも理事でもないけれども、「理事会構成員」とされていましたが、2010 年版から、初めて「役員」として明記されました。当クラブの昨年の組織図を見ますと、会長以下の全役員が理事でもあり、直前会長と共に「理事会構成員」となっていたようですが、今年の組織図は大幅に変更が加えられて、理事会と役員会がセパレートされていたので、訂正をお願いいたしました。

さらに、細則第 2 条では、「地区役員が選出された場合、本クラブ理事となる。」と明記されているにもかかわらず、組織図では馬場バスターガバナーは理事会メンバーに入っていないようで、理事会定足数も曖昧でしたので、指摘させていただきました。

細則変更は、「会員総数の 3 分の 1 の定足数の出席する任意の例会において、出席会員の 3 分の 2 の賛成投票によって改正することができる。」と手続要覧にありますので、年度毎のクラブ会長の方針により、年度の途中で変更は可能であります。

また、当クラブの場合、今年度は 48 名でのスタートとなり、クラブの年間平均出席率も何とか 90% 台を維持しておりますが、数名の出席不良会員が足を引っ張っております。

2010 年の手続要覧から、「年齢 65 歳以上の会員で、会員のロータリー歴と年齢の合計が 85 年以上であれば、『出席免除会員』の適用が受けられる。」というように、規定も改定されましたので、有資格者のご了解の下、クラブ出席率の更なるアップは可能です。

社員教育と同様で、質の高いロータリアン養成のためには、新入会員時代から、定款・細則を正しく教育することが必要で、現況報告書のご活用をお願いいたします。

今年度の地区運営方針と会員増強

「P E T S」、「地区協議会」に於いて、私の今年度の地区運営の基本方針を述べ、現況報告書にも掲載させていただきましたが、今まさに、時代は大きく転換しております。

さらに、3 月 11 日の東日本を襲った大震災は、その後の福島原発の放射能汚染問題とも重なり、今後の日本経済、とりわけ地方経済に、どれくらいの期間、どれだけの悪影響をもたらすのか、全く見当もつきません。

去る 7 月 16 日に開催の「第 2560 地区・会員増強セミナー」には、当クラブからも 熊倉高志幹事よりご出席いただきましたが、地区内 57 クラブを会員規模順に並び替えて、過去 20 年間にわたるクラブの会員純増数を比較した「健康診断書」を中心に、約 1 時間にわたり基調講演をさせていただきました。

過去 20 年間で、最多会員数を維持しているクラブは、新発田中央 C の 1 クラブだけで、あとは規模の大小を問わず、多かれ少なかれ会員減少に悩んでおります。

当クラブも、1969 年のクラブ創立時の 28 名から、その後、順調に会員を増やしまして、1997～98 年のピーク時には 80 名を数えた時期もありましたが、バブル経済崩壊後、急激に会員数を落とし、今年度は 48 名でのスタートとなりました。

会員増強・退会防止は、いずれのクラブにとりましても“目下の急務！”であります。2560 地区として問題なのは会員数 20 名未満のクラブで、現在 9 クラブありますが、そのほとんどがピーク時の会員数の 50% を下回っております。

さらに深刻なのは、会員数 10 名以下のクラブで、会員はピーク時の 20% 以下となり、クラブの平均出席率が 50% 台というクラブもあるのです。

セミナーの中で、「会員増強は生活習慣病の治療と同じで、誰にも効く特効薬や、万能薬は無い。自分から直そう

という気がなければ、成果は上がらない。」と申し上げました。

例会を楽しく、内容あるものとし、例会出席率が高まれば会員増強にもつながるという、好循環を維持しながら、全会員が一丸となって、会員増強に真剣に取り組んでいただき、再び、50 名以上の大規模クラブを目指していただきたいと願っています。

R I 会長の今年度テーマ

予定のお時間も残り少なくなってまいりました。ここで、「地区における唯一の R I 役員」として、今年度のカルヤン・パネルジー R I 会長の年度テーマについて触れてみます。

パネルジー会長の『**こころの中を見つめよう 博愛を広げるために**』という年度テーマについては「P E T S」「地区協議会」でも説明させていただき、現況報告書にも掲載されております。また、「ロータリーの友 7 月号」にもピノタ夫人と共に、その人となり写真と共に詳しく掲載されておりますので、ぜひお読みいただきたいと思います。

クリングスミス直前会長に比べて、かなり派手目のロゴマークをもとに説明させていただきますが、「一番上の太陽のように見える赤い丸は「博愛」をイメージし、その下の赤と黄色で形どられているのがハート(心)に見えるでしょうか？それを中段の腕が抱きしめるようにして、自らの心の中を見つめながら、一番下段の大きなロータリーマークで繋がれた腕で、人類全体を表現しているとのことであります。

パネルジー会長は、「世界の変化を望むなら、あなた自身がその変化にならなければならない。」というマハトマ・ガンジーの言葉を引用しながら、新年度の強調事項として、**第一に「家族」**をあげられました。

1 月の国際協議会で、初めてこれを聞いた時は、会長が貧しいインド出身だからと単純に考えておりましたが、3 月 11 日の東北大地震で、安全な家や食べ物、飲む水はおろか、家族まで失った人々の悲惨な状況を目の当たりにして、それまで“日本は例外！”などとおごり高ぶっていたことを痛切に反省させられました。

パネルジー会長は、強調事項の**第二に、「継続」**をあげておられます。つまり、これまでロータリーが得意としてきたこと。きれいで安全な水の確保や、識字率の向上、とりわけ「ポリオの撲滅」等々を、さらなる努力で継続してほしいということです。

第三の強調事項は、「変化」です。私は、個人的には、日本のロータリーが他の先進国に比べ大幅に会員数を減らしているのは、これまで継続してきた様々な事業が、現在の日本の実情にそぐわなくなっているからではないか？との思いを強くしております。

大きく変化しているこの現実をきっちりと認識し、“我々がなすべきことは何なのか！”を一日も早く見出す必要があると思い、地区運営の基本方針を「自らの足元を見直そう」として、「7 つのお願い」を皆様にご提案いたしました。

変化に対応できなかった恐竜やマンモスが滅びたように、もし自分たちのクラブの活性化、生き残りを願うなら、既存概念を打破し、勇気をもって、これまでの習慣や条件を変えていくことが必要と考えます。

ご静聴いただきましてありがとうございました。



クラブ協議会

講評

第 4 分区アシスタントガバナー
山 田 文 雄 様

長時間にわたり、質疑応答ご苦勞様でした。

石本ガバナーより丁寧にご指導いただき、クラブ運営に大いに勉強になったことと思います。会員増強、出席、楽しいクラブを作るということが根本なのではないでしょうか。

今月 24 日には、見附 RC がホストクラブを務め、IM を開催致します。分区のメンバーとの 1 年に 1 度の交流の場であります。多くの皆様のご出席をお待ちしております。

また、来年 5 月には国際大会がタイ・バンコクで開催されます。栃尾出身の田中作次 RI 会長エレクトがデビューされる記念すべき大会です。2560 地区でチャーター便を用意して地区から熱い声援を送る計画であります。5 月 8 日出発予定です。是非、大勢のご参加をお願い申し上げます。





国際ロータリーニュース 2011年8月23日

元ロータリー奨学生が母国の復興に尽力

3月11日に大地震と津波が東日本を襲った2週間後、看護師で元ロータリー財団国際親善奨学生の倉内菜穂子さんが被災地へ赴き、医療支援の活動を行いました。

地震発生後、東京にいる家族とスカイプ（ビデオ通話）で話していた倉内さんは、パソコン画面を通じて、家族の家が余震で大きく揺れる様子を目の当たりにしました。「誰でも、何かできることがある」と信じる一方で、「援助活動には、しっかりとした計画と準備が必要」と考えた倉内さんは、仲間とともに、医療機材を完備した救急車2台に食料を積み、沖縄から岩手県宮古市に向かいました。

現地には、あちこちに津波の生々しい痕跡が残っていました。「道のまんなかに船が打ち上げられ、家屋の上に車があたり、家の上に家があたりという状況で、町全体が泥と瓦礫だらけでした」建物が耐震用に造られていない国々では見たことのある状況でも、まさか母国でこんな大災害が起こるとは思っていなかったと言います。

国際保健を学ぶために2008-09年度国際親善奨学生としてスコットランドに留学した倉内さん。「東南アジアでの2004年の津波の光景が、鮮明に蘇りました。あの津波こそ、ロータリー奨学金の申請を決意したきっかけだったんです」倉内さんの一行は、5日間、宮古市内で救援活動を行いました。

人道的奉仕に情熱を傾ける倉内さんは、今年2月にも、インドでの予防接種活動に、日本人ロータリアンとともに参加しました。留学した時にも、ニジェールで現地調査を行ったり、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、イスラム救援機構をはじめとする団体の関係者から話を聞くなどして、ポリオ・プラスに関する修士論文を書き上げました。

「人を助ける、という概念をロータリーから教わったんです」と語る倉内さん。スコットランド留学中、現地のロータリアン・カウンセラー、ハリー・マクファーソンさん夫妻には、とてもお世話になったと言います。「マクファーソンさん夫妻の家で何度も夕食をごちそうになりました。ご夫妻がいなかったら、今日、ロータリーの活動にこれほど打ち込むことはなかったでしょう」

最初は文化の違いに戸惑ったこともあったそうです。例えば、日本ではおじぎで挨拶しますが、「（スコットランドでは）まず手を差し出して握手をしてから、抱き合って挨拶するんです。（中略）でも、こうした文化の違いを乗り越えたことで、新しいことに挑戦したり、新しい考え方を学ぶことができました」

震災による被害からの復興は「心理的にも経済的にも何年もかかる」と、倉内さんは考えます。「一日も早く、状況が元に戻り、風に散る満開の桜の美しさを（支援してくれた）方々に見てもらえる日が来ることを願っています」（訳者注：倉内さんの引用は、すべて英語から翻訳されたものです。）

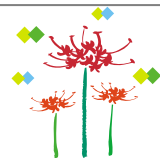


写真上：倉内さん一行が運転する救急車。津波によって打ち上げられた船の横を通っていきます。

写真下：インド、ウッタルプラデシュ州でのポリオ予防接種活動中、認識向上のための集会に参加した倉内さん

次週例会 9月19日 祝日「敬老の日」 休 会

次々週例会 9月26日 通常例会「クラブ・フォーラム」IM報告会



表紙について

武藤 昭三君 [1928（昭和3）年 8月7日生]

〇8月7日・この日何の日？

・鼻の日 「は（8）な（7）」語呂合せ

：日本耳鼻咽喉科学会が1961年に制定

・東京帝大の法・理・文学部に学士研究科を設置。

大学院の前身（1880年）

〇8月7日・この日誕生は？

司馬遼太郎：小説家（1923年）

三條南ロータリークラブ週報

2011. 9. 5

No.2008 No. 8